北海道大学大学文書館
沿革展示室第Ⅶ期企画展示

半澤洵博士の眼鏡に映った世界

植物誌から食物史へ、93年間の観察と探究

【会期延長しました！】
2025年10月1日(水)～
2026年5月25日(月)

【日時】月曜日～金曜日　9:30～16:30
※土・日曜日、祝日・年末年始(12/30-1/3)は休館

【会場】北海道大学大学文書館
（札幌市北区北８条西８丁目）

【問合先】TEL 011-706-2395

半澤洵（1879-1972）は、札幌農学校で宮部金吾教授に植物病理学を学び、1901 年に第 19 期生として卒業しました。俊英揃いの同期には、星野勇三（園芸学、メンデルの法則を紹介）、東海林力蔵（作物学、後に岐阜高等農林学校校長）、森本厚吉（経済学、女子経済専門学校を設立）、有島武郎（文筆家）などがいました。半澤は卒業後、札幌農学校（後に東北帝国大学農科大学に改組）の助教授となり、農作物の病の原因となる菌類や雑草の研究をしますが、間もなく、新しい分野である応用菌学に転じ、北里柴三郎が所長を務める国立伝染病研究所で研究方法の講習を受けます。その後、応用菌学研究のためドイツ・フランスなどに 2 年半留学し、各地の研究施設を視察してたいへん詳細な報告を作成しています。帰国後、応用菌学講座の創設に携わり、その担任教授となります。研究においては、納豆菌の純粋培養に成功し、大豆に納豆菌を直接植え付けて醗酵させる衛生的な納豆製造法を考案して普及に努め、「納豆博士」の異名を取りました。戦後は、新設の大学や女子短大で、新たな社会の形成に不可欠な食品学や商品学の関連分野を講義しました。

植物好きの真面目な少年が、札幌農学校で植物病理学を学び、応用菌学に転じて「納豆博士」となり、戦後も新しい大学で新しい社会のために教壇に立ち続ける、そんな 93 年間の生涯を、半澤洵自身が手元に残した旧蔵資料からたどります。スケッチも、研究論文も、報告書も、納豆ラベルも、講義ノートも、細部まで専心し詳細を究めています。その人柄、功績と共に、ユニークな半澤ワールドを感じていただければと思います。

【展示の順路】

Ⅰ．植物好き少年のスケッチ
Ⅱ．札幌農学校で植物病理学を学ぶ
Ⅲ．半澤洵博士の本棚――さまざまな交友
Ⅳ．雑草を究める
Ⅴ．応用菌学講座創設と納豆製法の考案・普及
Ⅵ．新しい大学で、新しい社会のために

【表図・裏図】札幌農学校在学時に描いたエニシダ（1899 年）とミヤマハンショウヅル（裏図）